



# 入居後のケア内容とその後

## C・H様

年齢	79歳	
性別	男性	
職業	建設会社の元経営者	
趣味	盆栽	
やりたい事	自宅に帰りたい	
既往歴	脊髄梗塞、対麻痺、 陳旧性心筋梗塞、 慢性下痢症	
疾患名	仙骨部褥瘡	
医療処置	膀胱留置カテーテル管理、 褥瘡処置 排便コントロール(下剤調整、摘便)	

## 入居経緯

令和4年8月、心筋梗塞による心破裂の治療目的でA病院、B病院、C病院に入院。その間、脊髄梗塞発症、仙骨部褥瘡を発症し、令和5年1月よりD施設での生活が始まった。以降2施設を経て、褥瘡処置目的で令和5年6月に当施設へ入居した。

### ～仙骨部の褥瘡の経過～

令和5年7月

令和6年5月

症例チラシでは写真を掲載しておりますが、ホームページ上では控えさせていただいております。

## ケア内容

入居当初は浸出液の量が多いこと、仙骨部褥瘡のポケット内に便が入り込むことなどから、週2回の入浴サービスを継続しながら1日3回の創部洗浄処置を実施。創縁のスキントラブルがないよう処置の都度スキンケアを丁寧に行った。マットレスはケアマネジャーからのご提案により”こちらあ利楽”を選択し福祉用具貸与で常時除圧対策を行っていた。

1日3回の食事時は車椅子移乗時に摩擦が起きないように離床介助し、車椅子乗車時の座面角度がほぼ90度になるよう姿勢保持と除圧を工夫した。栄養に関しては1400kcal/日の食事提供に加え、訪問診療医師より処方されたエネーボ(1缶/日300kcal)摂取を毎日継続していた。そのほか持ち込み食を自由に嗜好品を取り入れることで、摂取量不足を最小限におさえることができた。

褥瘡の状態をDESIGN-R2020で比較したところ、次のような経過が見られた。令和5年7月時点では、D4E6s8I3c93n0P24=45点、皮膚欠損部40mm×50mm、ポケット込103mm×60mmであり、入居3か月後にさらなる縮小を目指すため、陰圧閉鎖療法目的で約1か月間A病院へ入院。退院後のサイズは皮膚欠損部20mm×30mm、ポケットは依然深く50mm×40mmであった。1日2回をベースに、便汚染の頻度に合わせて創部の洗浄処置を都度行った。

10か月後の令和6年5月には、D4e3s3i093n0P6=15点皮膚欠損部20mm×8mm、ポケット込40mm×20mmまで改善した。

C・H様の個別的な要望に対し、可能な範囲で柔軟に対応しながら介入し、医師・ケアマネジャー・訪問看護師・理学療法士・訪問介護・福祉用具事業所・ご家族との積極的な連携により、C・H様の希望の場所である自宅へ戻るための支援が出来た。

平均請求額 120,944円/月

訪問介護の介護保険自己負担  
訪問看護の医療保険自己負担分  
訪問理容費立て替え込み



相談会への1分簡単申込



宮城県石巻圏域初  
医療ケア対応型ホーム

「SUN SUN ISLAND 石巻」

お申込み/お問合わせ

022-355-4660(10~17時)

080-3326-0133(直通)

〒986-0824 宮城県石巻市立町2丁目6-12

